

**【施策評価調査】**

施策名	5-5-5	スポーツイベントの充実		125	スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求に応える世界共通の人類の文化の一つです。心身の両面に影響を与えるスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や心身の健全な発達に必要不可欠です。住民が気軽にスポーツを楽しみ、スポーツを通して交流の輪を広げ、地域が活性化される環境を整えます。 いつでも、だれでも、どこでもスポーツが出来るよう、各種スポーツイベントの開催、軽スポーツ・ニュースポーツの紹介、交流大会の開催等、定期的にプログラムを提供することで、町民の健康・体力づくりを図りながら自己実現に寄与します。
	担当部課	教育部 生涯学習課	担当 リーダー		
環境変化	特になし				施策内容 町民のスポーツ実施率向上や参加者増加を目指し、競技団体や地域と連携しながら、スポーツレクリエーション大会やマラソン大会などのスポーツイベントの充実を図ります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：スポーツイベント参加者数(人)	平成16年度実績	計画	8,800人	9,200人	9,600人	10,000人	10,500人
	8,341	実績	9,100人	9,431人	10,591人		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	2,495,000	3,889,000	3,786,000	3,932,000	
	決算	2,589,317	3,656,247	3,619,600		

**事務事業事前評価 22年度の組立て**

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)
町民体育祭開催事業費	H21 現計 1,200,000 H22 計画 1,000,000	参加者数 延べ9000人	公民館単位の対抗戦をとることで、地域の団結力や連帯感を深める機会づくりとなります。体育祭種目は、子供からお年寄りが参加しやすいものを取り入れるなど、全町民の参加が期待できます。(球技大会 野球・ソフトボール・女性フットサル) (町民体育祭: マリ入れ、ゲートボールリレー、スーパーキャッチボール、アラカルトリレー、台風の目、輪投げ等、力を合わせて、みんなでジャンプ、公民館対抗リレー)	継続
各種教室開催事業費	H21 現計 437,000 H22 計画 490,000	参加者数 850人	毎月開催のさわやかスポーツ教室を通して、運動を楽しみながら健康増進と体力づくりを心がけ、運動習慣の定着化を図っていきます。また世代間を超えたニュースポーツの開催やスポーツレクリエーション大会、ウォーキング大会など関係団体と交流をかね、抱き合っまで開催していくことで幅広い事業が展開できます。(指導者の要請、他機関との事業の合同実施) (さわやかスポーツ教室、スポーツレクリエーション大会、ニュースポーツ大会、ウォーキング大会、全国スボレク祭ハーサルベタング大会)	条件付継続
元気あっぷマラソン大会交付金	H21 現計 2,295,000 H22 計画 2,080,000	参加者数 1650人	町外からの参加はもちろんであるが、昨年より多くの町民の参加が得られるよう呼びかけます。ハーフマラソン大会は、21年度に公認コースを新たに、町のイメージアップにもつなげていきます。情報提供は、FMとちぎラジオ、ランナズ(マラソンの専門誌)、町ホームページ、町広報誌等	条件付継続
町体育協会補助金	H21 現計 3,124,000 H22 計画 3,124,000	体育協会登録者数 1,300人	町民がいつでも、どこでも、気軽に運動に参加できる環境づくりができ、スポーツ教室や各種大会に多くの町民が参加できます。町民一人1スポーツの推奨に大きく貢献し、運動習慣の定着や運動欲求の充足が期待できます。	継続
町スポーツ少年団補助金	H21 現計 199,000 H22 計画 199,000	スポーツ少年団単位数 11団	少年少女の運動の場を提供し、運動しやすい環境づくりが進みます。また、各種町大会、地区大会、県大会、全国規模大会と多くの友達と触れ合う機会を得ることができ、仲間づくりができます。さらには、子どもの体力、運動能力の低下が懸念される中、運動能力の向上につながります。	継続

**施策事前評価 22年度の組立て**

自己評価	今後の方向性	後期計画に向けた施策展開のビジョン	H22年度の狙い
	現状水準維持	スポーツを通して明るい町づくりや体力づくり事業の一環として、町民の皆さんが健康に対する意識を高めるよう、町をあげての町民体育祭や新春のマラソン大会、また気軽に参加できる各種教室を開催します。 さらに、青少年の心身の健全な発育、発達を促し、自己責任、フェアプレイの精神を身につけさせるとともに、仲間との交流により豊かな人間性を育めるよう、日常的な生活の中でスポーツに親しむことができる環境を整備していきます。	町民のニーズに応えられるよう、幅広い年齢層を対象にした教室・種目・大会等を選択するなど、昨年以上に町民のスポーツ参加率を上げます。 日常生活の中でスポーツに親しむことができるよう、体育施設の開放、総合型地域スポーツクラブの推進、各種教室(親子のふれあいサークル、中高年を対象としたスポーツ教室等)を実施します。 また平成23年度全国スボレク祭の会場と決定されたことにより、22年度はハーサル大会を予定しています。ベタングは子供からお年寄りが楽しめるニュースポーツなので、これを機に一層のスポーツを楽しむ人たちの参加率を増やします。
総合評価	スポーツ施策に関しては、健康づくりなのか運動習慣づくりなのか、競技スポーツなのかレクリエーションなのか、どの年代をターゲットにしているのかなど、目的が不明瞭である。その上で、町が担うもの、総合型が担うもの、体協が担うものの整理がされていない。現在の取組みからは「全てを網羅的に推進する」という方針を読み取ることができるが、後期計画に向けては、職員負荷等を考慮し、目的を精査するべきである。ターゲットのある程度特化し、町がすべきことのラインを明確にした上で、その他については民間や総合型、体協や地域に委ねていくことが必要ではないか。		